

隊友 船橋だより

平成26年7月号

発行：千葉県隊友会 船橋支部事務局

拝啓

暑中お見舞い申し上げます。台風8号が沖縄、鹿児島、四国愛媛、紀伊半島、長野、福島各県の太平洋側を北上し、3人の尊い犠牲者が出るなど、川の氾濫、低地の冠水、山崩れ、突風などで各地に大きな被害をもたらしました。

千葉県は台風の進路直撃かと思いましたが、幸い船橋市は風雨もたいしたことなくよかったですね。

御身内、友人などに被害があった方にはお見舞いを申し上げます

これから本格的な夏、今年の長期予報では冷夏の予想も見直され例年並みとか、熱中症や光化学スモッグなどの対策を怠らず夏のレジャーを楽しみ元気に乗り切りましょう。

敬具

千葉県隊友会 船橋支部長 森良雄

理事・役員一同

丸山・藤原分会の分会長を引き継いでくれる方がいませので8月の「隊友」から県本部より郵送にいたします。

習志野駐屯地納涼夏祭りが、8月2日（売店・イベント・花火）3日（売店・イベント）降下塔広場で開催。

船橋支部通常総会は8月30日12時から、習志野駐屯地隊員クラブで開催。

大穴「嗚呼海軍七勇士殉難の跡碑」供養

6月25日(水)恒例の「嗚呼海軍七勇士殉難の跡碑」の草刈と供養を実施した。草竹は精一杯伸び、蒸し暑い中、約1時間半有志は大汗を出しながら作業を終え、碑前で般若心経により供養を行った。

今回は、近隣の市議会議員：中村静雄様、元大穴連合町会長：小山様のご参列、ご芳志も頂き、参加有志のご尽力により、地元への関心度の広がりも感じとることが出来、本誌を通じ感謝申し上げます。



後列左から、豊富分会長：河野正信氏、大穴福分会長：久保博氏、同分会：佐藤正雄氏、松が丘分会：梅本隆太郎氏、二和・咲が丘分会：佐野通夫氏、飯山満・二ノ宮分会長：村山金三郎氏、二和・咲が丘分会：北岡 潔氏、坪井・松が丘分会長：門脇 茂
中央3人の左から：高根前分会長：築山 正氏、メガネの方、小山様、高根分会長：窪洋之右氏、前列左から大穴分会長：羽田行雄氏、二和・咲が丘分会長：木村義忠氏、同前分会長：川村福一氏、北部地区常任理事：丸山光則氏です。

供養を終え、通りかかったご婦人に写真撮影をお願いし記念撮影、車座となって冷えた飲料水や茶菓子を頂きながら、七勇士が殉難した当時のことや、佐藤正雄氏、築山正氏の戦時中経験したこと、碑周辺の整備の構想及び、中国の尖閣諸島問題等について話し合い、次回11月27日(木) 命日に実施することで散会しました。

(門脇副支部長)

中国・韓国と日本

船橋支部だより 5月号の続き

7. 日本が二つの隣国との間に抱える難問には、多くの共通点がある。

第一に、中韓両国は共に、問題の根源は近年の歴史の中にあり、日本は過去の行為に関する責任を完全に引き受ける能力に欠けている、と主張している。

第二に、緊張関係は共に、領有権に関する論争の進行によって悪化している。

第三に、中韓両国の統治責任者たちは、緊張を軽減するための努力を続けないだけでなく、自国内での政治的な立場を強化する手段として、反日感情をあおることが、あまりにも多い。

第四に、3か国の間には深い経済統合があるにも関わらず、健全なアジア経済を促進する上で日本が演じる役割の重要性に関して、人々の錯覚を促し、支援しようとする動きがほとんどない。

第五に、中韓両国は、米国が暗黙のうちに、あるいはあからさまに、日本の攻勢を促しているのではないかと、疑っている。

我々日本人は「事実」といえば「客観的な事実」。法律の言葉で言えば、かくかくこのように物事が発生したという「発生事実」を指す。しかし、中国・韓国では「決定事実」つまり、自分たちが人為的に決定した事実こそが「事実」だと。しかも厄介なのは、しばらく経つと、その決定事実すら、自分の都合に合わせて変えて来る。これこそが日中韓の歴史認識問題が終わらない最大の原因である。

日本は、建設的な平和国家として、この地域の経済発展に積極的な役割を進んで果たそうとしている。しかしながら、アジアには日本に対する見方に関する限り、一貫して二つの例外が存在し続けてきた。それが中国と韓国である。

参考文献

読売新聞・朝日新聞

文芸春秋

教科書が教えない歴史 (産経新聞ニュースサービス)

中国人の本性 (副島隆彦 VS 石平)

日本人は中国人・韓国人と根本的に違う (黄文雄・呉善花・石平)

記 平成25年10月1日

戸室

中国という国を学ぼう

1. 2000年前ナポレオン三世の言

「中国は眠らせておくべし、目覚めた中国は世界を揺さぶる」。今や、市場経済参入で解き放たれたエネルギーと13億のマンパワーが世界をゆるがしている。

中国での2008年夏季オリンピック時、外国人に好印象をあたえるため「手引書」にあくまでも礼儀正しく、衛生観念を高く保ち、観光客には暖かく接するよう求めていた。しかし、中国の外国人に対する本心は変わってはいない。

2. 三つ叱って五つ褒め七つ教えて子は育つ

(1) 愛国無罪

中国人は子供のころから愛国教育、特に、日本のことについては、歴史を歪曲し、日本は中国に対し、悪いことをしてきた国、何十万人もの一般人を殺害してきた国と教え込まれて育った。尖閣諸島についても歴史的経緯に関係なく「尖閣諸島は中国の領土」と信じ込まされて（教えられて）きた。

反日デモと乱暴狼藉が週末ごと広がった2005年の反日暴動を思い出した。あの時の新聞で見たことわざ、「牛は自分の角が曲がっているのを知らないし、馬は自分の顔が長いのを知らない」と、自分のことについては全く気付いていない。目覚ましい経済成長を遂げたというに、相変わらず、「愛国無罪」愛国さえ掲げれば許される（褒められる）という当時の甘えは、中国が大切にするはずの「大人の風格」にはほど遠い。「日本側の誤った言動に義憤を示すことは理解できるが、非理性的で違法な行為は賛成出来ない」と中国外務省。叱らないで理解を示すから愛国無罪が止まらない。世界の大国なら自分の角が曲がっていることをそろそろ気づいてもいい頃だ。

(2) 1993年永井荷風の日記

銀座の洋品店に入ると、先客に子供連れの一家がいた。躰がなっていない。子供は猿の如く、室内を靴音高く走り回り、卓上の上に飾りたる果物草花を取り、またナイフにて壁を叩く、親は周囲の迷惑顔もどこ吹く風、叱りもしない。今の親たちは子供の躰方には全く頓着せざるが如。

趣旨が「反日」であれ、デモが暴徒化し、日系企業を襲撃するのは、して悪いことである。そのけじめを教えず、実行犯を本気で摘発しよう(叱ろう)としない中国当局は、銀座の洋品店の客と変わらない。

「大国を治るは小魚を煮るが如」中国の古典、老子にある。大きな国を治めるやり方は、小魚を煮るようなものだ。やたらに手をださず、煮えるがままに任せる。つき回すと煮崩れしてしまう。騒ぎに手を出しすぎると、かえって騒乱が広がる。「治めざるをもって深くこれを治」と。では中国の行く末はどうなる？

(美浜区 戸室氏)

9月号に続く